

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根ざして暮らすことを心掛けています。「そのままのあなたでいい」「老いる自由を楽しみましょう」を理念として掲げ、利用者の尊厳を大切にしています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲示しており、管理者は引継時やミーティングの際に職員と顔をあわせて説明し、理念の共有に努めています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	見学時や運営推進会議の際に事業所の理念を理解していただけるよう努めています。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃より、隣近所の方とは挨拶を通して顔なじみの関係を作るように心掛けています。近所のスーパーは顔なじみになっており、店員さんから声を掛けていただいたり、近所の方から旬の野菜や果物をいただくこともあります。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っており、夏祭りや校区民祭にも参加し、地域の方々とかかわりを持つよう努めています。	

グループホーム夢野家Ⅱ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議では介護サービスの問題点などを話し合う機会を持ち、参加者と共に、地域の高齢者の暮らしや今後の福祉について話し合っています。近所で認知症高齢者を保護したという方が相談に訪れ、近隣ホームに連絡し、警察への保護に繋がりました。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価結果を受け、避難訓練を行うなど、改善に努めています。今まで評価していただいている部分においては維持できるよう職員全員で取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はおおむね二ヶ月に一度行っています。「運営推進会議」では堅苦しいため「茶話会」と名前を変えて欲しいと参加者より提案があり、和気藹々を話し合えるような場作りを心掛けています。外部評価の結果についても報告し、具体的な意見を交わしていただきサービスの向上に活かしています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市へは利用者の増減など、連絡と相談を密にしています。また、昨年度より介護相談員を月に1回受け入れ、年度末の三者面談(市・相談員・ホーム側)にも参加し、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営推進会議に社会福祉協議会職員に来ていただき、権利擁護について話し合う機会を持ちました。成年後見制度を利用されている入居者が以前おられ、関係者や家族と密に連絡を取り合いました。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が虐待防止の講演会に出席し、その後ホーム内勉強会にて学ぶ機会を持ちました。拘束だけではなく、スピーチロックなど言葉の暴力にも目をむけ、虐待防止の徹底に取り組んでいます。		

グループホーム夢野家Ⅱ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時には重要事項説明書を口頭にて、分かりやすく説明しています。退所にあたっては家族の方と一緒に次の施設に面接に行ったりと、家族や利用者の不安を解消し、移り住むダメージを防ぐよう努めました。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者や職員は利用者信頼関係を結ぶよう努めており、何でも言っただけの雰囲気を作るようにしています。また、市から派遣されている介護相談員を月に1回受け入れており、利用者の意見を汲み取っていただき改善に努めています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時に暮らし方を写真や口頭にて知っていただけるようにしています。健康状態の変化時には電話にて連絡、相談を行っており、月に一回は定期的に電話とFAXにて連絡を取るようになっています。これら連絡時の報告内容は記録しています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時や電話などで意見を聞くようにし、利用者本意は家族本意と考え家族の声の収集に努めています。年一度家族も参加するミニ旅行を行い、家族同士が顔を合わせる機会を設けています。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者は管理者でもあり、職員と日常的に顔をあわせていることから、意見を反映させる機会を多く設けています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ゆとりのある人員を確保するよう努めています。行事や外出時には職員配置を多くしたり、家族の代わりに受診を付添ったり、退所時に施設まで付添ったりと柔軟な対応を行っています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は少なく、管理者と職員は気軽に意見を言える関係を築いています。新しい職員は慣れるまで現任者と一緒に夜勤をするなど、利用者へのダメージを防ぐようにしています。</p>	

グループホーム夢野家Ⅱ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>市から情報をいただく実践者研修には重点的に参加するなど、職員が交代で研修に参加しています。また、月に一度のミーティング後に勉強会を開き、全職員での共有に努めています。</p>	○	<p>現在利用者に困難事例の方がおられ、ホーム内にて勉強会を計画しています。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内のグループホームとは合同での行事を多く設けているため、サービスの振り返りと質の向上に役立っています。また、市内のGHとは相互に見学を行ったり、電話で相談に乗っていただいたりと交流の機会を多く持っています。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は管理者でもあり、実際の介護の現場を理解しており、職員の疲労やストレスに配慮したり、職員間の人間関係も把握し、働きやすい環境作りに取り組んでいます。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員が向上心を持って働けるよう、個々にて自己評価を行う機会を作っています。それぞれの職員の長所・短所を理解し、楽しく働けるように取り組んでいます。</p>		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>以前、利用者のご主人が要介護状態になり、入居を希望してくださったときには、利用にいたるまでの間に本人自身から不安や不満、希望などをお聞きし、信頼関係を築くよう努めました。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族にこれまでの経緯を丁寧に伺い、苦勞や苦惱について傾聴し、入所する事への罪悪感を最小限にできるよう、意向や希望を伺っています。</p>		

グループホーム夢野家Ⅱ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

グループホーム夢野家Ⅱ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	「リハビリをもっとしたい」と希望され、老健に移られた利用者を他の利用者と一緒に訪問し、近くの喫茶店への外出も支援しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を改良しアセスメントを行い情報を収集しています。利用者との会話や家族から意向や以前の生活を伺い、本人の思いを汲み取っています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に家族やケアマネ、医療関係者から生活歴や生活環境、利用サービスについて伺い、利用者のこれまでの暮らしについて把握するようにしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式を改良し、定期的にあセスメントを行い、現状の暮らしについて総合的に把握するようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や利用者の意向を反映して、計画作成者を中心に職員が話し合い介護計画を作成し、家族に報告しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者全員についてカンファレンスを行い介護計画に反映しています。3ヶ月ごとに見直し、家族にも伝え意向や意見を確認し、6ヶ月ごとに評価の書き換えにつなげています。利用者に変化があるときにはその都度見直しを行っています。		

グループホーム夢野家Ⅱ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルチェック票や生活状況を個別に記録し、職員間で情報を共有しながらケアの向上や介護計画の見直しに活かしています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診には職員が同行し、家族に報告連絡を取っています。ホームには予備の布団を用意し遠方の家族が泊まれるようにしており、希望があれば食事も提供しています。家族が利用者として外出する際のタクシーの手配や送迎をおこなうこともあります。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方に庭の手入れをお願いしたり、手芸講師として月2回教室を開いてもらっています。また、利用者が一人で外に出られたときには近隣のスーパーや近所の方の協力を数多くいただいています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	専門的にリハビリをしたいという利用者の希望に添えるよう、自己負担でデイケアを利用できないか検討したが、保険外での利用はできず、老健への入所という形でかなえることができました。また、その方の移動には車椅子対応の介護タクシーを手配し、受診や老健への入所時に利用できるよう支援しました。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会に出席の際には、権利擁護について教えていただきました。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に添って近隣の協力医・歯科医への受診には職員が付添っています。また、歯科医は往診もでき、ホームで受診が出来るようになっていきます。受診結果については、その都度家族に報告しています。		

グループホーム夢野家Ⅱ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声掛けや言葉遣いには充分気をつけるようにしており、ミーティングなどで個人の尊厳について確認し合っています。個人情報は事務所に保管し、記録時はなるべく利用者の目に触れないよう気を配っています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	洋服や飲み物、買い物など日常生活の中で選ぶ機会を多く持つようにしています。数多い選択肢の中から選ぶのが難しい方には二つの物を見て選んでいただくなど、答え易い工夫をしています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	早起きの利用者は早朝から廊下の掃除をされたり、天気の良い日には近所の神社へ散歩に出かけたり、スーパーで一緒に食材の調達をしたり、自由に伸びやかな時間を過ごしていただいています。利用者は居室に籠ることなく自然にリビングに集まり、それぞれが好きな場所で寛がれています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理美容を二ヶ月に一度全員が利用し、希望に添って毛染めをされる方もいます。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理担当の職員が、食材を見て利用者の希望や意見を聞いてメニューを決め、手作りしています。下ごしらえや配膳、片付けを手伝っていただき、職員も一緒に食事をいただいています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望に添って毎朝ヨーグルトを用意したり、記念日にはお酒を振舞ったりしています。珈琲が好きな方、牛乳が好きな方など嗜好を把握し、日常的に楽しんでいただいています。しかし、たばこを希望される利用者には、火災の危険もあり、家族も辞めさせたいと思っておられることから支援しておりません。	

グループホーム夢野家Ⅱ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	なるべく紙パンツは使わず、布パンツや失禁パンツで過ごしていただけるよう支援しています。おひとりおひとりの排泄パターンをつかみ、排泄の失敗を最小限にするよう取り組んでいます。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後2～5時に入浴時間を設け、一日3～4名の方に入浴していただきおり、毎日入っている方もいます。入浴拒否の方は無理強いせず、入浴時間以外に入っていたり、洗髪は洗面所で行うなどの柔軟な支援を心掛けています。	○	強い入浴拒否の方がおられるため、その方が気持ちよく入浴できるような対応策を職員間で話し合っています。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度に日中も眠りたい時に眠っていただいています。寝る前に静かに読書したい方には自室に本棚とスタンドを設置し、眠りやすい環境作りに取り組んでいます。また、どうしても夜間眠れない方には医師の指導の下、薬を利用する事もあります。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事(食器拭き、拭き掃除、洗濯たたみなど)や知識などその方の得意な分野で力を発揮していただいています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前、受診や買い物の支払をしている方がおられ、支援をしていました。利用者がお金を持ち続けられるよう、該当する方がおられる場合は支援する予定です。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム隣のスーパーでの買い物や、徒歩10分ほどの八幡さんへの散歩が日課です。花を訪ねてのドライブや映画鑑賞など、利用者の希望に添って月に数回積極的に外出、外食を行っています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	橿原神宮にスロープが設置され車椅子でお連れすることが可能となり、念願の菊花展を楽しむことができました。遠方の家族が利用者とお食される時に近くのお店を紹介、予約やタクシーの手配など支援させていただきました。		

グループホーム夢野家Ⅱ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話は自由に使用できるため、利用者が電話を使いたいときには支援して、使っていただいています。年賀状やお礼状などは宛名を代筆するなど、難しい部分のみ支援させていただいています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者に来客のある場合は本人に代わってお茶をお出ししています。遠方の家族は利用者の部屋に泊まれる事もあります。利用者の家として気軽に訪問していただいています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	関連のセミナーに管理者が参加、職員ともミーティングを通して共通認識を持つよう取り組んでいます。実際に身体拘束は行っておりません。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず、センサーチャイムで利用者の出入りを把握しています。外出を望んでおられる時は一緒に近所を散歩したり、一人で庭を散歩してもらうなどの対応をとっています。鍵を掛けないでいられることは全ての利用者が落ち着いているからできることであり、継続できるよう取り組んでいます。	○	利用者が落ち着けるような雰囲気を作り、医師の指示の下で薬を調節し、夕方から不穏となる利用者への対応としていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ほとんどの利用者が日中を居間で過ごして下さっており、間取りがLDKのため家事をしながらも入居者の様子が伺えるようになってきました。記録も利用者が見えるところで行っており、常に居場所を把握するようにしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	夜間は台所の包丁を閉まっています。鉄や洗剤などは普段から目のつきにくいところにしまうようにし、誤使用、誤飲を防止しています。誤飲、誤使用の可能性のある利用者がいるため、強化中です。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会を定期的に行い、事故防止のために学んでいます。マニュアルも目のつくところにおいています。		

グループホーム夢野家Ⅱ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ホーム内で急変や事故発生時の応急手当や初期対応の訓練を行っています。又、夜勤帯の急変や事故発生時には近くの職員の応援体制も整えています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	この春にホームで避難訓練を実施し、職員間で避難場所や通報方法などを確認、避難方法について学びました。	○	年に一度の避難訓練の継続と、地域の方の協力を得られるよう働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	危険を伴う行動以外は自由に過ごしていただいているため、利用者に起こりうるリスクについてその都度家族に説明し、話し合ったり、意見をいただいたりしています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の検温、血圧測定、毎月の体重測定、三ヶ月ごとの受診にて健康管理に努めています。異常があれば即管理者に報告し、家族への報告の必要がある場合は直ちに連絡するようにしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時には全職員が説明書に目を通すようにし、薬の目的や副作用、用法、用量を確認しています。また、既存の薬についてはすぐ確認が取れるよう説明書をファイルしています。投薬ミスのないよう、ダブルチェック体制をとっています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜中心の食事内容のため、便秘が改善される方もいます。安易に薬に頼るのではなく、ヨーグルトや体操を取り入れ、便秘予防に心掛けています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実践しており、往診医からは綺麗な入れ歯を維持できていると褒めていただいています。		

グループホーム夢野家Ⅱ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事量をバイタルチェック表に記載しています。嚥下の状態によってペースト食にしたり、嗜好によって代替食を考えたりと、一人ひとりのその日の状態や習慣に応じ、摂取できるような食事を提供しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい、手洗いの励行、室内の温湿度の管理を常に行っています。年1度感染症対応の勉強会を行っており、利用者や職員、職員の子供のインフルエンザ予防接種の費用をホームが負担(子供の場合は半額負担)しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁やまな板は野菜用と肉魚用に分けて使用しており、定期的に消毒を行っています。食材は自家製野菜が中心で、米は農家から直接購入しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	民家改修型のため、周囲に溶け込んでおり、かつ高級感もあるため、自慢の「おばあちゃんの家」として家族の方は気軽に訪問してくださっています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型のため自分の家のような生活感があります。居間以外にも共用スペースとしてウッドデッキやサンルームがあり、居心地よい生活空間を作っています。昨年、庭園を手入れし、四季折々の花木と触れ合うことができ、掲示物にも季節感がでるよう工夫しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキやサンルーム、廊下のいろんなところに椅子を置き、思い思いのところで過ごしていただけるよう工夫しています。気疲れした入居者の方がサンルームでひとり佇まれる姿や、季節の風を浴びながらウッドデッキで楽しそうに話されている姿が日常的に見られます。		

グループホーム夢野家Ⅱ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた鏡台や人形を持ち込んでいただいたり、家族との思い出の写真を飾ることで、自分の部屋であることが利用者に判るよう努めています。本が好きな方には本棚を、字を書かれる方には机を用意し、居心地良く過ごしていただけるよう工夫しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	昔ながらの民家のため換気がよく、温湿度計を置き、温度・湿度にも注意しています。外気温との差があまりないように努めており、季節に応じた服装で調節していただいています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関や廊下に階段や段差がありますが、入居者の状況に合わせて手すりを増設したり、工夫しています。言葉掛けや見守りで安全に生活できるよう援助しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所をわかりやすく表示したり、便器の使い方を思い出せるようトイレ内に絵カードを張ったりと工夫を凝らしています。入浴時には必要なもののみ用意して混乱を防ぐようにし、利用者の力を活かし続けられるような支援をしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広い庭を自由に散歩できるようになっています。天気の良い日には積極的に外へ散歩に出かけています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム夢野家Ⅱ

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

民家改修型のため、自宅にいるかのような暮らしを提供しております。  
 広い庭をいつでも散歩することができ、四季の移ろいを肌で感じていただけます。  
 また、少人数ならではのフットワークの良さを活かし、外出や外食、行事への参加も数多くおこなっております。